

疾病 (異常)	<b>08 マレック病</b>		
肉 眼 所 見	<p>1 臓器の病変</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・類円形で白い結節性の病巣が、諸臓器に散発ないし多発するが、肝臓と脾臓で目につきやすく、いずれも大きさや厚みを増している。</li> <li>・結節性病巣の多くは臓器の表面に盛り上がり形成され、実質内にも認められる。</li> <li>・腫瘍細胞がび漫性に浸潤した病変は肝臓や脾臓で散見され、その大きさは2~4倍に腫大し、結節は認め難い。</li> </ul> <p>2 皮膚の病変</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・頸部、胸部、背部、大腿部などの皮膚の主として羽包部に、広範な隆起状結節として認められる。</li> </ul>		
廃棄等の 根拠	別表第9		
			
<p>肝臓は軽度に腫大し、白色～灰白色の結節性病巣が密発している。脾臓にも同様の病巣が認められる。</p>	<p>脾臓は腫大し、脾頭部に円形の結節性病巣を認めるほか、全域に点状の白色巣が密発している。</p>	<p>肝臓の表面に盛り上がった類円形の白色結節が多数認められる。</p>	
			
<p>腹側の皮膚全面の羽包部に多発性の淡桃色の隆起状結節が認められる。</p>	<p>頸背部の羽包部に隆起状結節が密発している。</p>	<p>両脚皮膚の羽包部に淡桃色の隆起状結節が多数認められる。</p>	